



Walk with Children めぐる



せいび

214号
2025年7月

サレジアン国際学園目黒星美小学校

「光の子」として生活しなさい。実に、光の結ぶ実は、善意、正しさ、真実をそなえたものです。
主に喜んでいただけることは何であるかを見極めなさい。 (エフェソ 5章8節～10節)

校長 シスター小島 理恵

暑い夏真っ盛りの季節となりました。子ども達は一大イベントである運動会を控え、暑さに負けず日々練習に励んでいます。今年も、感動を与えてくれる運動会になることと思います。楽しみです。

さて、上記の聖書の言葉は、イエス・キリストに従った使徒の中でも異色の経歴を持つ聖人とされるパウロの手紙の一節です。もとはたいへん熱心なユダヤ教徒で、イエスを信じる信者たちを迫害する側にいた人でした。しかし、回心するや否や、今度はこれまで以上の熱心さでイエスを信じる一人となり、その教えを人々に宣べ伝える使徒となりました。まさに目から鱗*です。

これまでの生き方、特に自分にとって課題であると感じながらも変えることのできない生き方や傾きから、他の方向へと舵を切るのは、難しく勇気のいることです。しかし、良い方向、正しい方向へと変わっていくとき、私たちは「光」のうちに歩いていくことができるのです。子ども達が、光の子として神様に喜んでいただける人生が歩めるよう願っています。

*「目から鱗」の語源は、実にこのパウロの回心からきた言葉です。パウロは信者たちを捕らえに行く途中、直接イエスの声を聴きます。「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害するのか」と。その時から3日間、失明の状態に陥ります。しかし、信者であるアナニアの訪問を受けた際、目から鱗のようなものが落ちてまた見えるようになり、それからの生き方が180度変わった、ということが「使徒言行録」に記されています。

夏の集い

6年 学年主任

夏休みももう目前。前期前半最後の行事が待っています。「夏の集い」です。2～6年生が各クラスごとに出し物を考えます。魚釣り、的当て、クイズ大会、宝探し、お化け屋敷 など子どもたちの豊かな発想が溢れるようにできそうです。アイデアを出し合う子どもたちの様子は大変生き生きとしていて楽しそうです。

クラスの出し物がさあ決まり、企画と準備を本格的に考えていこう、とした矢先に子どもたちは、「理想として描くこと」と「現実的にできること」の間で試行錯誤していきます。この理想と現実の擦り合わせも子どもたちにとっては貴重な経験でしょう。

出し物の詳細を考えていく中で、毎年どのクラスも子ども自ら問いを持ち、考え始めることがあります。それは「どうしたらお客様の1～6年生まで楽しませることができるか。」です。他者の目線に立ち、低学年だったら～、高学年だったら～とどの子どもでも楽しめるように工夫を考えていきます。他者のために自分たちは何ができるのか、というキリスト教の価値観がこんな場面でも自然と垣間見えることに私たち教員は嬉しさを感じるとともに、こちらまで温かい気持ちになります。

慌ただしい7月。準備の時間は限られています。しかし、きっと子どもたちは「どの子どもも楽しい夏の集い」を開催してくれるに違いありません。

委員会活動

児童会

児童会では、学校で生活する子どもたちの中心として日々の朝礼の司会を行ったり、運動会などの大きな行事では児童代表として言葉を言ったりと、様々な活動を行っています。時には学校の代表として、また時には縁の下の力持ちとして、学校を支えてくれていると感じています。お互いに声を掛け合い協力し、そして全員が責任を持って進めています。彼らがどのような学校を作っていくのか、そしてどのように自分たちの持ち味を発揮していくか楽しみに見守っていきます。

児童会総会を通して

6年

私は初めて、児童会総会で議長を担当しました。児童会総会では、「高学年として低学年のお手本となるために自分からどのように行動すればよいか」を議題にし、話し合っていました。当日に話し合いがスムーズに進むよう、私は委員会で同じ班の子と一緒に原稿を何度も書き直したり、話し合ったりして準備を進めていきました。原稿を作っている時には、同じ班の二人だけでは決められなかったり、悩んだりしたこともありました。それでも、児童会の他の班の子たちは意見を言ってくれたり、議長の経験がある班は率先してアドバイスをしてくれました。他にも委員会の先生方はいっしょに構成を考えてくださったり、訂正をしてくださったり、時には落ち込んだ時にははげましてくださったりもしてくださりました。

当日の児童会総会を成り立てられたのは、班の二人で何度も原稿を書き直し進められただけではなく同時に周りの人たちの手助けが多くあったからだとということにも気付かされました。児童会総会が終わってからは、クラスで話し合った目標に向かって学校のみならず頑張っています。私は児童会として学校のみならず仲良く楽しい学校生活を送れるように、そしてみんなのお手本となれるよう日々意識して行っています。また、次の児童会総会の活動でも、児童会の中でも各々の班同士でアドバイスを合せて、より良い話し合いの場にしていきたいです。

仲良し委員会

学年を超え仲良しの輪を広げたいという思いから今回は「鬼ごっこ」を企画しました。楽しく安全に実施するためのルール作りや役割分担など子ども達が話し合いながら準備を進め楽しく実施することができました。

仲良し委員会の活動

6年

仲良し委員会ではいろいろな企画を通して明るく楽しい学校にするという目標に向かって活動しています。そのために毎日やっている仕事として1年生のお世話が挙げられます。僕は水曜日に1年A組に、金曜日に1年B組に行っています。最近では1年生と仲良くなってきたのでこの活動が楽しくなっています。また2学年ごとに「にげろ!泥棒たち」というドロケイも企画しました。スタートするのが遅くなってしまったけれど、どの学年も楽しんでくれたので良かったです。これからも目標に向かって楽しく活動していきたいです。



図書委員会

5月は読書月間でした。図書委員の子ども達は、この機会に少しでも多くの人たちが図書館を訪れ、本に親しむきっかけが持てるようにいろいろな企画を考えました。短い期間での準備でしたが、学校中の人たちが読書に勤しむことができるよう一生懸命活動し、たくさんの学びを得ることができました。

独創的な読書月間

6年

今回の読書月間で一番印象に残っていることは、今までにやったことのない独創的なアイデアがたくさん出て、それを実現できたことです。特に私は、スタンプラリーの景品をくじで決めることや本のワゴン貸し出しが独創的だと思います。今までのスタンプラリーは、何個たまったらこの景品という風に決められていたものが、くじになったことでほしい物が出なかったからもったいばろうというようにおもしろみが増したからです。また、ワゴン貸し出しという今までにない斬新なアイデアで、普段はなかなか図書館に来れない人も気軽に本を借りることができたことが、おもしろい試みだと思いました。

読書月間では、例えばワゴン貸し出しの時に、2学年一緒だと1つの学年が来にくくなってしまふなどの反省点がありましたが、今回の企画で経験した反省点をこれからの活動にも生かしていきたいと思いました。



情報委員会

学校の1日は、情報委員が流す朝の音楽から始まります。全校の子どもたちの生活に欠かせない校内の放送に、様々な工夫を凝らし、楽しんで聴いてもらえるよう、日々責任をもって取り組んでいます。

全校のみんなに聴いてもらうよこび

6年

情報委員会では、朝や昼の放送をしたり、週間ポスターをかわたりしています。朝放送では、その日に合わせた内容を伝えるなど、様々な工夫をしています。昼放送では、今日は何の日クイズやインタビュー、学校行事などを紹介し、みなさんに聴いてもらえるように努力しています。

情報委員会の仕事はやる事が多くあり、時々「大変だなあ」と思うときもありますが、私はこの委員会が大好きです。メンバー同士で意見を出し合い、真剣に話し合ったことが実際にできると、とてもやりがいを感じ、また全校のために貢献できているという思いにもなり、ものすごくうれしいです。

私はこれからも情報委員として頑張っていきたいと思います。

